

⑤ 5年生 「ミシンを使ってランチョンマットを作ろう」

基礎・基本を身につけ、 一人ひとりの個性が表れる作品作り

家庭科専科が配置されている学校が少ない中、ミシンを使う製作については担任の先生方が苦勞されると聞きます。しかし、ポイントをおさえて指導すれば、確実に子どもたちに力をつけさせることができます。

○ 基礎・基本の技能や知識を身につけさせる

ミシンを正しく扱えるように、操作についてはしっかりと指導したいものです。

まず初めは、ミシンの各部の名称を教科書などで確認させます。ミシンに触れたことがない子どもが多くいますから、各部の名称を知ることは、その後のミシンの操作の学習にも役立ちます。例えば、糸かけの指導で「はずみ車を手前に回して…」と説明しても、はずみ車がどれを指しているのかわからなければ、理解できるはずがありません。教科書の絵や写真を見ただけではわからないので、実際にミシンを見て確かめさせます。そして、ふたの開け方・電源の入れ方・片付け方まで説明します。

その後、から縫い・直線縫い・返し縫い・角の曲がり方など、練習布を用いたミシン縫いの練習を経て、作品作りに入ります。ミシンの操作ができるようになると製作はスムーズです。しっかりと基礎・基本が身につく、完成が見ちがえるように良くなります。

さらに、布についての学習を行い、「布はやわらかくて軽くてじょうぶである」など、わたしたちの生活になくはない材料であることを学びます。また、布は糸と糸を織り合わせてできており、布はしは、ほつれることに気づかせます。

製作にあたっては、布はしの始末の方法として、三つ折りを学習します。この時、できあがりの大き

さに縫うための余分（縫い代）をつけなくてはならないことを学びます。同時に、まち針の打ち方、アイロンのかけ方も身につけさせます。

○ 創意工夫させる

アイロンの扱いに慣れると、かざりの工夫でアイロンによる接着布（イラストフィルム）が有効に利用できます。子どもたちは、イニシャルやキャラクターなど自分の好きな形に切り取って、楽しみながら製作に取り組みます。かざりつけは一人ひとりの思いや願いを実現でき、個性が表れます。



好きな形に切って、上からアイロンをあてれば完成!!



○ 関心・意欲を高めさせる

作品を完成させたら、学習を振り返り、実際に活用させたいものです。調理実習では自分で作ったランチョンマットを敷いて試食しました。自分たちで調理したこともランチョンマットも、おいしく楽しく食べられる要素のひとつになり、家庭実践への意欲にもつながります。

▼作品が完成すると、お皿に見立てたカードに一人ひとりの「作品によせる思い」を書かせます。



作品

▲調理実習の試食会にて。作品を活用することで、達成感や愛着にもつながります。